

一年を振り返って

今年、新型コロナウイルス・パンデミックという人類が初めて経験する世界的危機の一年でした。生涯の記憶にも記録にも残る重大事件で、東京オリピックが開催できないとは、誰が予想したでしょうか。覚浄寺でも、総会の中止、永代経や報恩講の短縮など対応に追われました。

そんな中、五〇年以上、本堂を風雨から守ってきた正面引き戸をアルミサッシに換えていただき、雨漏りや吹込みを防げるようになったことはありがたく、明るいニュースでした。

法座では、長年続けてこられた安食西仏教婦人会が閉会となりました。高齢化や入会者がい

御和讃をいただく

ぶつね 仏慧功徳をほめしめて

うえん 十方の有縁にきかしめん

しんじん 信心すでに得人人は

ぶつとんぼう 常に仏恩報ずべし。

ないためですが、本当に長い間ご苦労さまでした。会員の皆さまはまだまだお元気ですので、引き続き法要にはお参りくださると思います。その一方、三月から一時中断していたお講は六月から再開し、あらたに入会された方もあつて賑やかに勤められています。来年もしばらくはコロナと付き合わねばなりません。無理せず休んだり再開したりしながら安全第一でいきましょう。今年もありがとうございました。(住職)



お念仏に生かされている喜びを、広くご縁のある方々におつたえいたしましよう。それこそ仏恩に報じる道なのでしよう

十二月(師走) 予定

十四日(土) お講 十一時

三十一日〇 除夜会 夜七時

北の空を撮ってみました

手持ちのデジカメに星空モードというのがあることに気がついて、晴れた夜に北の空を撮影してみました。目ではたぐさんの星は見えませんが、長時間露出して撮影する星が弧を描いて動いているのがわかります。これは星が回っているのではなく、私たちが回っているのです。「大地は動かない」と思いますが、こうやって地球がまわるからこそ昼が来て夜が来てちようど良い気候になるのです。当たり前の一日が、とても不思議に思えてきます



住職が新聞に掲載されました

十一月二十二日の中日新聞に、住職の職場の取り組みが紹介されました。最近、テレビやニュースでLGBTなどのセクシュアルマイノリティについて話題になることが増えていますが、とくに出生時の性別に違和感を持ち、出生時とは異なる性別で生きている人にとってトイレはとても大事な問題です。自認する性別のトイレを使うのが当たり前なのに、周りの人の目や偏見があつてなかなかそうできないこともあるので、自分が使いたいトイレを選択できるように「だれでもトイレ」を設置したことを記事にさせていただきました。気づかないけれども、実は身近に生きづらさを感じている人がいる、ということに気づき、認め合い譲り合うきっかけになればよいと思っています。

老僧からのお知らせ

毎年すすはきのときにお渡ししていましたが、来年の法語カレンダーのお渡しはコロナウイルスのためすすはきが中止となりできませんでしたので、常僧に来ていただいたときにお渡ししますのでご了承ください。

なお、火、金と水はデイスーパー